

はすだ 自治連だより

第32号

令和3年9月14日

編集・発行 蓮田市自治連合会

特集

自助の備え

明日来るかもしれない

大地震!!

その時あなたは

“蓮田だけは大丈夫” ということはありません

蓮田市では、最大震度6強の地震発生が想定(「蓮田市地震ハザードマップ」)されています。
世界有数の地震国、日本ではどこで大地震が起きても不思議ではありません。

熊本地震の例

熊本では大きな地震が過去120年以上も発生していなかったため、住民は「ここは大きな地震は来ない」と考えていたとのこと。大地震の確率は低いということで自治体が企業誘致のキャッチフレーズにしていたほど。ところが地震は起きた。

最も頼りになるのは「自助」による「日頃の備え」

1) 防災エキスパートに、命を守るための自助対策「家具・調度品の転倒防止対策」を学びます。

(本文P2~P3)

特別寄稿：「大災害時には、自助70%が基本です。
あなたは自分の命を自分で守れますか」

防災士 斎藤 芳男先生(NPO 法人埼玉県防災士会 理事)

2) 自治会員の皆さまへ、「防災保存版」をお届けします。(「自治連だより」に併せて配布します)
日頃の生活の中で備えておく「在宅避難のための備蓄品」や、これだけは揃えておきたい、
「避難所避難のための持ち出し品」、「車中避難のための持ち出し品」のチェックリストです。

全戸配布資料： 防災保存版 「感染症との複合災害に備える備蓄品」

監修・防災士 斎藤 芳男先生 資料協力・南蓮田自治会自主防災部

* 保存資料として、冷蔵庫や室内ボードに掲示して活用して下さい。

大災害時には、自助70%が基本です。

あなたは、自分の命を自分で守れますか。

防災士
斎藤 芳男氏

知ってください
被災実態
ご紹介



阪神淡路大震災時において、
犠牲者の大半が
60歳以上の高齢者でした。

86%が、
家の中で起きていた。

阪神淡路大震災には、6,400人以上の死者、41,500人以上の負傷者が発生。多数の犠牲者の最大の原因は、家屋の倒壊及び家具の転倒。犠牲者5,500人のうち、77% (4,224人) が窒息・圧死。火災の犠牲者が多いと思われていますが、9.2% (504人) が焼死・熱傷でした。

多くの高齢の方が犠牲となってしまいました。
この教訓をどう活かすか考えて見ましょう。

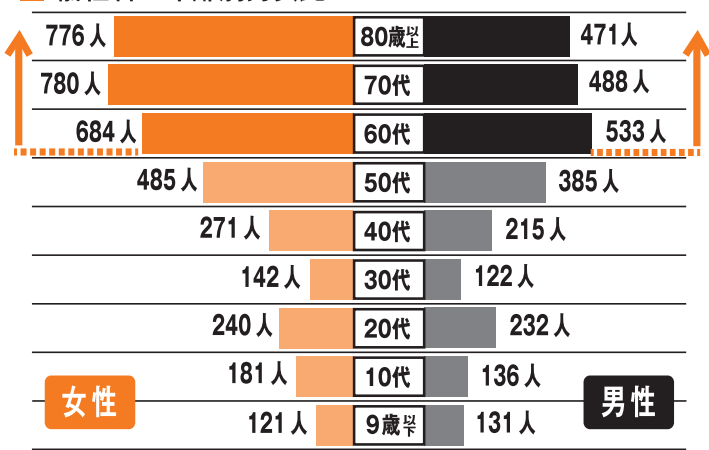
ケガした方に聞くと皆さん言っていました。
「本当はやろうと思っていたのに」って。

■ 阪神淡路大地震の被害状況は？

犠牲者…… 6,434 人 負傷者…… 43,792 人

犠牲者の過半数 60歳以上の高齢者(女性多数)

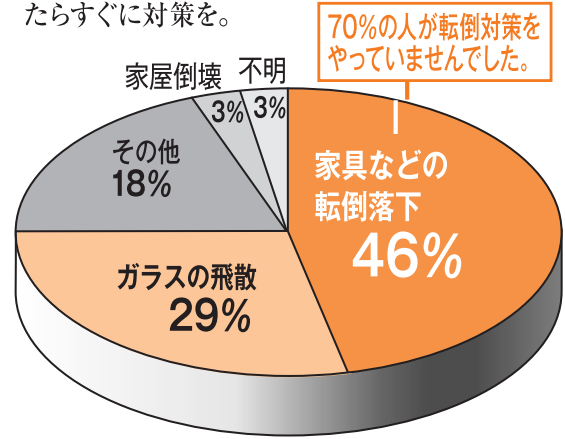
■ 犠牲者の年齢別男女比



1995年阪神淡路大地震の被害状況データ

■ 負傷者のケガの原因は？

家庭内の家具転倒やガラス飛散による傷害が圧倒的に多いのが現実。家具を固定することでケガを防げることは皆さんは知っているのです。まさか自分が被害に遭うとは……。思い立ったらすぐに対策を。



70%の人が転倒対策をやっていませんでした。

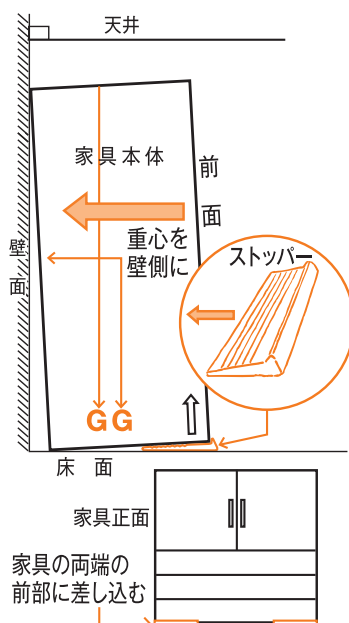
自助 対策

家具や調度品の転倒防止することが、 自分の命を守る最大の対策です。

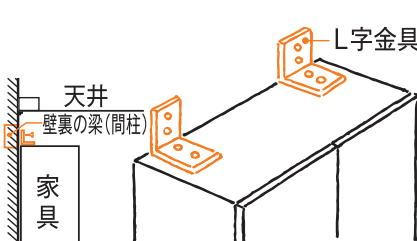


大規模地震の破壊力は、モノが落ちたり倒れたりと言うよりも、家の中をモノが飛び交い、家具が跳ねたとの想像を超えた証言がありました。マンションの高層階は、転倒被害が著しく多かったようです。

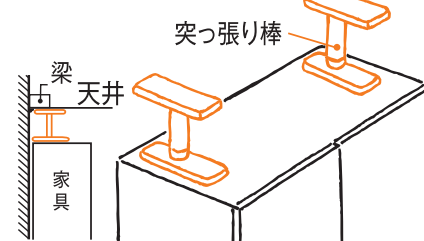
ストッパーを下部に挟み 重心を壁側に倒す



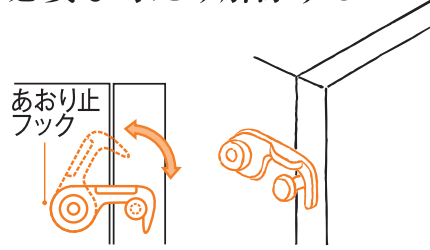
L字金具で家具を壁に固定 壁裏の固定する梁を確認



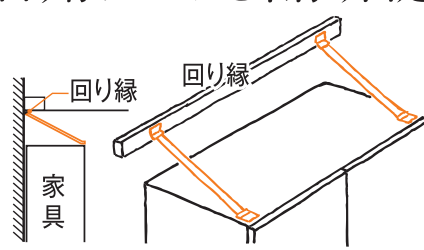
突っ張り棒でタンスや本棚を 天井との隙間に固定



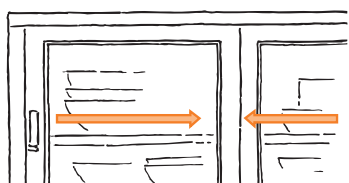
片開扉は側面にフックを付け 必要な時だけ解除する



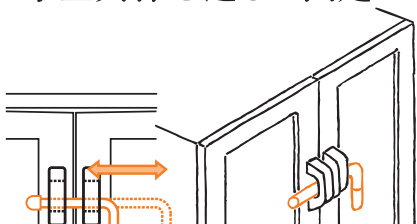
ベルトや鎖で家具の上部と 回り縁にフックを取付け固定



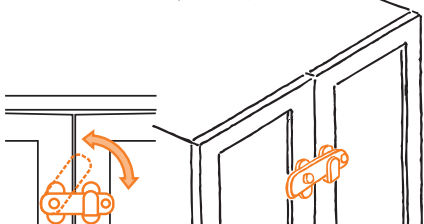
食器棚は引戸が良い 食器が飛び出さない



ツマミのある両観音開き扉は L字金具棒を通して固定

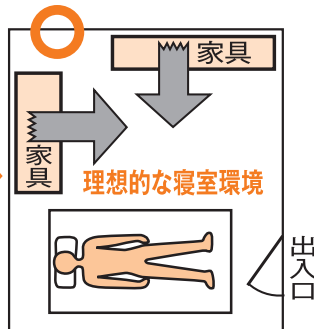


ツマミのない両観音開き扉は 打掛錠を取り付け固定



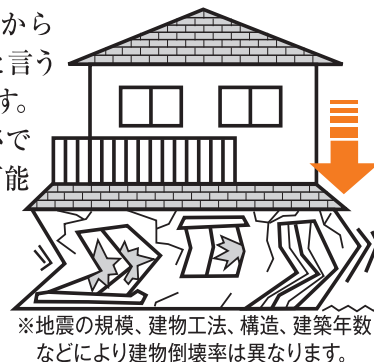
転倒被害を避けるため寝室の配置検討

家具転倒や落下物による被害を抑える就寝時の防災対策を。



1階と2階どちらの方が安心?

階段が大変だから
寝室は1階にと言う
方が増えています。
1階は2階の重さで
押し潰される可能
性があります。



※地震の規模、建物工法、構造、建築年数
などにより建物倒壊率は異なります。



家族会議で災害対策をしっかりと立てる



①震災時の連絡先

家族全員の携帯番号・職場の連絡先をメモ交換し、家の中のボードなどに番号一覧を掲示する。

②家族の役割分担

地震発生直後の二次災害予防担当を決めておく。
高齢者・乳幼児の保護担当者を決めておく。

③備蓄品、非常時持ち出し品の備えとチェック

必要かつ効果的に揃っているか、定期点検と交換。
品名ごとに揃える担当も決めておくとの良い。

④防災用具のチェック

消火器を点検、使い方を覚えておく。
応急手当の訓練をしておく。



⑤家具・調度品の転倒防止

役割分担・備品購入・作業日程など計画的に実施。

⑥避難場所・落合場所の確認

家族が離ればなれになった時の身を寄せる場所を確認する。災害後の最終落ち合い場所を決めておく。

安否確認
のための

災害用・伝言ダイヤル「171」の使い方

<171に電話した後、音声ガイダンスに従う>

☆伝言の録音方法（自分が伝えたいことを録音する時）

171 → 1

伝言を入れる番号（自宅や携帯電話）

伝言を入れる
(30秒以内)

☆伝言の再生方法（相手の安否などが知りたい時）

171 → 2

伝言を聞きたい人の電話番号

伝言を聞く

☆災害伝言板(web171) インターネットで案内に従って伝言の録音・再生をする。

Web171

検索

<https://www.web171.jp>



令和3年度自治連合会役員

会長	小川	總之輔
副会長	廣本	覺
副会長	宗像	敬一
副会長	関原	達也
常任理事	齋藤	齊
常任理事	別所	昌江
常任理事	大塚	武夫
常任理事	間ヶ部	隆治
常任理事	澁谷	徹
常任理事	石井	哲彦
会計	小山	晃
会計	間ヶ部	隆治
会計	石井	哲彦
監事	澤田	初夫
監事	伊奈	正光
監事	飛田	富男

☆複合災害対策として、避難所での感染症から身を守るために「在宅避難」が推奨されます。
冷蔵庫内の食料品や備蓄品を支えに、自宅での避難生活（軍中避難含む）で、共助、公助の支援が来る迄、家族でしっかりと自助で生き延びる対策を講ずることが大切です。

☆自助の第一歩は、家族による対策会議です。
対策会議を通じて命を守る第一の対策として、家具・調度品の転倒防止策に取り組み、第二の対策として備蓄品、持ち出し品のなどの備えに取り組みことをお勧めします。

☆コロナ禍が続く状況下で最も懸念されることは、大地震などの自然災害が同時発生する「複合災害」です。過去の大地震の被災経験から、防災・減災に頼りになるウエイトは自助70%、共助20%、公助10%と言われます。

☆令和3年度自治連合会通常総会が、去る5月28日（金）書面表決方式で開催され、事業計画案と予算案が承認され、別表のとおり役員が選任されました。
しかしながら、新型コロナウイルス感染症がデルタ株の蔓延により、爆発的に拡大しているため、多くの自治会が活動に苦慮しています。

自治連合会からのメッセージ